

上映スケジュール

3/19(土)	17:30~19:30	「死者よ来たりて我が退路を断て」 ¹ 「おきなわー日本 1968」 ² 「69・6・15」 ³
20(日)	17:30~19:30	「ヒロシマ・ランニング」 ¹⁴ 「叫びたし 寒満月の割れるほど」 ¹⁵
21(月)	17:30~19:30	「釘と靴下の対話」 ⁴ 「魂の風景 大野一雄の世界」 ⁶
22(火)	10:00~	「釘と靴下の対話」 ⁴ 「Nの記録」 ⁸ 「魂の風景 大野一雄の世界」 ⁶
	13:00~	「東京…その変容と時間」 ⁵
	14:00~	「プープー」 ⁷ 「ドキュメント6・15」 ¹³ 「WOLS」 ⁹ 「ゲバルトピア予告編」 ¹⁰ 「シンジクステーション」 ¹¹ 「ハイレッドセンター・シェルタープラン」 ¹²
	15:30~	<トーク・セッション> 平野克己 ゲスト:平沢剛
23(水)	16:30~19:30	「ヒロシマ・ランニング」 ¹⁴ 「多摩市 都市化の中のふるさと」 ¹⁸ 「死者よ来たりて我が退路を断て」 ¹
	17:30~19:30	「生木が立枯れていくごたる」 ¹⁹
24(木)	17:30~19:30	「ヒロシマ・ランニング」 ¹⁴ 「叫びたし 寒満月の割れるほど」 ¹⁵
25(金)	17:30~19:30	「いつか死ぬのね」 ¹⁵ 「アリバイ」 ¹⁶
26(土)	17:30~19:30	「いつか死ぬのね」 ¹⁵ 「アリバイ」 ¹⁶
27(日)	17:30~19:30	「多摩市 都市化の中のふるさと」 ¹⁸ 「東京…その変容と時間」 ⁵
28(月)	10:00~	「叫びたし 寒満月の割れるほど」 ¹⁵ 「ヒロシマ・ランニング」 ¹⁴ 「いつか死ぬのね」 ¹⁶
	13:00~	「死者よ来たりて我が退路を断て」 ¹
	14:15~	<トーク・セッション> 水野征樹 佐々木美智子 北村隆子 他
	15:30~17:00	「生木が立枯れていくごたる」 ¹⁹
29(火)	17:30~19:30	「釘と靴下の対話」 ⁴ 「魂の風景 大野一雄の世界」 ⁶
30(水)	17:30~19:30	「プープー」 ⁷ 「ドキュメント6・15」 ¹³ 「WOLS」 ⁹ 「ゲバルトピア予告編」 ¹⁰ 「シンジクステーション」 ¹¹ 「ハイレッドセンター・シェルタープラン」 ¹²
31(木)	17:30~19:30	「ネパールの人々とともに」 ²⁰
4/1(金)	17:30~19:30	「死者よ来たりて我が退路を断て」 ¹ 「おきなわー日本 1968」 ² 「69・6・15」 ³

※全日上映を行う3月22日、28日の上映順は変更になる場合があります。
スケジュールの変更やその他詳細は、ホームページ (<http://bijon.i-brains.jp/>) をご覧ください。
上映会についてのお問い合わせは、bijon@i-brains.jpまでお願いいたします。

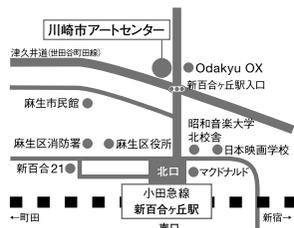
当日料金(税込): 1,000円
アルテリオシネマ会員: 800円

※全日上映日(3月22、28日)は
前半(午前)・後半(午後)
各1,000円です。
※前売り券はありません。

 川崎市アートセンター
kawasaki ART center

アルテリオ映像館

〒215-0004 川崎市麻生区万福寺6-7-1
Tel. 044-955-0107 Fax. 044-959-2200
URL: <http://kac-cinema.jp/>



こんな時代があった… そして、こんな映画が残った

闘争の時代を共にした 映像作家たちとその後

2011年3月19日(土)~4月1日(金) 川崎市アートセンター

死者よ来たりて我が退路を断て / おきなわー日本 1968 / 69・6・15 / 釘と靴下の対話 / 東京…その変容と時間
魂の風景 大野一雄の世界 / ドキュメント6・15 / プープー / Nの記録 / WOLS / ゲバルトピア∞シリーズ
(シンジクステーション / ゲバルトピア予告編) / ハイレッドセンター・シェルタープラン / ヒロシマ・ランニング
叫びたし 寒満月の割れるほど / いつか死ぬのね / アリバイ / 生木が立枯れていくごたる / ネパールの人々とともに

主催:グループびじょん 協力:川崎市アートセンター

グループびじょんは、1960年代後半、日本映画新社内で演出部、撮影部有志を中心に、社員および契約者で構成されたグループであり、主に短編映画の制作に携わっていた。社内の雇用条件や制作体制の改善を求めながら、作品合評会や機関誌の発行を行うなど、新しい映像表現を模索する集団であった。1968年当時、全共闘運動の高まりの中で、自主映画の制作に着手し、闘争の記録映画としてつくったのが「死者よ来たりて我が退路を断て」である。グループびじょんのメンバーは、その後、解散状態になったが、短編映画、テレビ番組、自主映画などと分野は違うがその後も制作活動を続け、現在に至っている。今回の上映会では、この作品に加え、メンバーのその後の作品群、および、このグループと親しかった一匹狼の映像作家たちのいくつかの作品も合わせて、自主制作映画を中心に上映する。

グループびじょん

- 1** **「死者よ来たりて我が退路を断て」** 1969年 モノクロ 65分 DVD /16mm 製作：グループびじょん

1968年秋から1969年2月まで、日大芸術学部のパリケード内の学生たちの闘争と日常を、最後の機動隊突入まで取材、小さな出版社の解雇撤回闘争の取材もあわせて、闘う学生や労働者の心に迫ろうとした作品である。

併映 闘争支援のためのシネトラクト 岩波グループ(岩波映画労組支援)

2 **「おきなわ ー日本 1968」** 1968年 モノクロ 8分 DVD 井坂能行

3 **「69・6・15」** 1969年 モノクロ 10分 DVD 井坂能行

平野克己

- 4** **「釘と靴下の対話」** 1958年 モノクロ 28分 16mm 脚本：平野克己（日大映研 共同製作）

大学に納める授業料を紛失した一人の学生が、それを探す中で二つの自我に分裂していくというストーリーを軸にして、学生の置かれた閉塞状況を超現実的に描こうとした学生映画。日大映研の処女作であり、日本の実験映画の先駆けとなった作品でもある。

- 5** **「東京…その変容と時間 首都高速道路建設記録」** 1969年 カラー 51分 DVD 演出：平野克己

東京オリンピックの後、首都東京にふさわしい高速道路網の整備が急速に進められた。それは、一面では古い東京を破壊し、新しい東京をつくるという荒療治でもあった。四年間にわたる建設工事と、それによって消えていく暮らしと変貌していく街の姿が、一人の少女の夢の中での出来事のように、幻想的に描かれていく異色作。

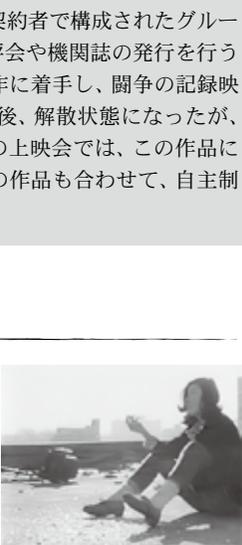
- 6** **「魂の風景 大野一雄の世界」** 1991年 カラー 75分 16mm 演出：平野克己 撮影：大津幸四郎 出演：大野一雄 大野慶人

今は亡き天才舞踏家、大野一雄…。世界の人々を感動させたその舞踏の根底には、「胎児になって踊りたい」、「生者と死者は限りなく一つ」という偏執があった。この映画は、1990年、83歳の大野氏を北日本の原風景の中に連れ出し、山野に宿る生命（いのち）たち、そこに眠る死者たちとの一期一会の出会いを通して、大野舞踏が産まれていく時空を記録した映像詩である。

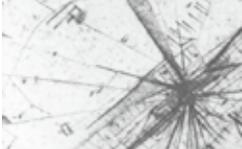
城之内元晴

二十数年前、不慮の事故で世を去った一匹狼の映像作家、城之内元晴…。彼の残した作品たちは鬼才と呼ぶにふさわしい独特のスタイルとシャープな輝きを持っている。日大映研時代の青春の自画像「プープー」、前衛画家達のイベントの記録「ハイレッドセンター・シェルタープラン」、一人の画家の絵に込められた魂の叫びを大UPの駒撮りの連写で描きだした「WOLS」、母校日大の全共闘闘争に受けた感動を己のユートピアへの夢に託した「ゲバルトピア∞」シリーズ、自分の撮った10・21国際反戦デーの争乱の記録映像の前に立ち、自作の詩をうたい上げるパフォーマンス映画「シンジュクステーション」など…、今、国の内外で若い映画研究者から注目を浴びている城之内作品のいくつかを紹介する。

- 7** **「プープー」** 25分 **8** **「Nの記録」** 20分 1959年 モノクロ 16mm 城之内元晴他（日大映研 共同製作）
- 9** **「WOLS」** 1965年 パートカラー 18分 DVD
- 10** **「ゲバルトピア予告編」** 1969年 モノクロ 13分 DVD
- 11** **「シンジュクステーション」** 1974年 モノクロ 16分 DVD
- 12** **「ハイレッドセンター・シェルタープラン」** 1964年 モノクロ 18分 サイレント DVD
- 13** **「ドキュメント6・15」** 1961年 モノクロ 13分 サイレント DVD **他**



©IKEGAMI



「WOLS」



「シンジュクステーション」

水野征樹

- 14** **「ヒロシマ・ランニング」** 1975年撮影 2007年完成 モノクロ 60分 DVD 監督・撮影：水野征樹 出演：前島幹雄

ベトナム戦争も終結した1975年、水野と俳優の前島がフトしたきっかけで、東京は日本橋から広島まで、900キロをマラソンで走るようになった。15日間も走り続け、終戦記念日の8月15日広島市の平和公園に着いた。一見目的のないランニングで、水野と前島はいったいなにを思い、そして、なにを得たか？



- 15** **「叫びたし 寒満月の割れるほど」** 2008年 カラー 56分 DVD 監督・撮影：水野征樹

“叫びたし寒満月の割れるほど”とは、昭和22年（1947）に福岡で起きた殺人事件の犯人とされ、警察・検察庁・法廷で一貫して無実を叫びながら、一通の白紙調書に強引に押された拇印の為に28年間獄舎に繋がれ、刑場の露と消えた福岡事件死刑囚西武雄氏が、その無念さを訴えた句である。この映画は西武雄氏の無実を信じ、再審に一生を捧げた教誨師・古川泰龍とその家族の壮絶な闘いの記録である。

佐々木美智子

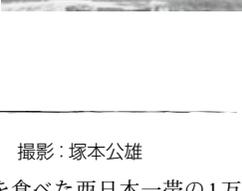
何の怖れもなく作ってしまった。稚拙だが青春の悲しみと絶望を表現せずにいられなかった。私が写真を撮るのは対峙する人の魂をとらえたいのだ。片思いの恋のようだ。シャッターを押した途端に終るのだから。私は片思いが好きだ。適切な言い方ではないが、私なりに映画の中でおとしまえをつけた。一番自分が恥ずかしい事をする一として裸になった。見苦しいので、自動でカメラを逆様にして撮った。私の限界だ。ごめんなさい。「いつか死ぬのね」も「アリバイ」も分かれているが一本のつもりだ。「アリバイ」は未編集だが、私の頭の裡ではカメラが廻りつづけているから完結はない。だから楽しい。（佐々木美智子）

- 16** **「いつか死ぬのね」** 1974年 モノクロ 30分 DVD 演出・撮影：佐々木美智子
- 17** **「アリバイ」** 1974年 モノクロ DVD 58分 演出・撮影：佐々木美智子

小野俊雄・内藤広

- 18** **「多摩市…都市化の中のふるさと」** 1972年 カラー 28分 DVD 演出：小野俊雄 撮影：内藤広

この作品は、多摩市変貌のびっくり箱である。高度成長期、膨張する東京の都市計画のシンボルとされた多摩ニュータウン。里山を切り崩してのニュータウンの造成が進む中、里の風景、生活と行事を丹念に描いている。40年後の現在、高齢者問題で悩む多摩ニュータウンを見るとき、消えていった生活や民俗が実は、現在の「生きるよりどころ」であったのではないかと思わせる。



岡田道仁

- 19** **「生木が立枯れていくごたる」(カネミ油症患者の記録)** 1976年モノクロ 80分 16mm 演出：岡田道仁 撮影：塚本公雄

カネミ油症事件とは、1968年福岡県北九州市で起こった食品公害である。米糠から抽出した米ぬか油を食べた西日本一帯の1万4000人以上が被害を受けた。当時、医学映画を担当していた岡田は、カネミ油症患者と出会い、この公害の実態に迫るドキュメントを製作するため、岩波映画を退社して、北九州を中心に被害者を取材して完成させた。

松田重箕・千原卓司

- 20** **「ネパールの人々とともに〜ジャイチ、教育と農業で国づくり支援〜** 2009年 カラー 119分 DVD 取材・撮影：松田重箕 構成・編集：千原卓司

カメラマンの松田が高校の同級生に頼まれて、現地取材したネパールの山村での学校づくりの記録映画。1993年から17年間取材を続け、小学校入学から成人するまで、山村の子供たちの成長が記録されている。この学校の建設は、市井の篤志家の支援によって行われた。

「ネパールの人々とともに〜ジャイチ、教育と農業で国づくり支援〜」

闘争の時代を共にした**後** **映像作家たちとその後** **こんな時代があった…** **そして、こんな映画が残った**